

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年11月11日

【四半期会計期間】 第21期第2四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)

【会社名】 I N E S T株式会社(旧会社名 ユニバーサルソリューションシステムズ株式会社)

【英訳名】 INEST, Inc.(旧英訳名 Universal Solution Systems Inc.)
(注)平成28年6月29日開催の第20回定時株主総会の決議により、平成28年7月1日から会社名及び英訳名を上記のとおり変更いたしました。

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 伊奈 聰

【本店の所在の場所】 東京都豊島区東池袋一丁目13番6号

【電話番号】 03-6894-6240(代表)

【事務連絡者氏名】 社長室室長 若林 司

【最寄りの連絡場所】 東京都豊島区東池袋一丁目13番6号

【電話番号】 03-6894-6240(代表)

【事務連絡者氏名】 社長室室長 若林 司

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第20期 第2四半期 連結累計期間	第21期 第2四半期 連結累計期間	第20期
会計期間		自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高	(百万円)	1,450	1,522	3,831
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	△161	100	125
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失(△)	(百万円)	△533	156	△285
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	△533	153	△285
純資産額	(百万円)	344	773	590
総資産額	(百万円)	1,289	1,152	1,724
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期(当期)純損 失金額(△)	(円)	△10.97	3.23	△5.88
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	—	—	—
自己資本比率	(%)	25.5	63.6	33.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△86	121	230
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	7	△126	13
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△91	△16	△215
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	556	733	755

回次		第20期 第2四半期連結 会計期間	第21期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失 金額(△)	(円)	△8.09	0.25

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第20期第2四半期連結累計期間及び第20期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。第21期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第1四半期連結会計期間において、メディカモバイル株式会社は、清算終了したことにより連結の範囲から除外しており、株式会社光通信は、平成28年6月29日をもって、当社の親会社からその他の関係会社となりました。

当第2四半期連結会計期間において、アスカティースリー株式会社の株式の一部を譲渡したことにより、同社を連結の範囲から除外し、持分法適用の範囲に含めております。また、株式会社E P A R K ライフスタイル及び株式会社E P A R K テイクアウトを新規設立し、連結の範囲に含めております。

この結果、当社グループは、当社、その他の関係会社、連結子会社7社及び持分法適用関連会社3社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

平成28年7月20日開催の当社取締役会において、連結子会社であるアスカティースリー株式会社の株式の一部を株式会社7ホールディングスへ譲渡することを決議し、同日付で同社との間で株式譲渡契約を締結のうえ、平成28年7月31日に実行いたしました。

詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表等 注記事項（企業結合等関係）」に記載のとおりであります。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日～平成28年9月30日)における我が国経済は、政府の経済対策や日銀の金融政策を背景とし、企業収益、雇用の改善がみられました。一方、為替の変動や英国の欧州連合離脱等、海外経済の不確実性の高まりなどから、先行きについては不透明な状況が続いております。消費の基盤となる個人所得の水準については、小幅な改善に留まっており、個人消費者の節約志向により景況感足踏み状態となっております。

当社グループを取り巻く事業環境では、引き続きスマートフォン・タブレット端末の普及拡大が進んでおりますが、大手通信会社のスマートフォンの買い替えサイクルが長期化したことなどによる新規販売の減少により、その伸長率は鈍化傾向となっております。また、情報通信事業者による新サービスの提供開始や、仮想移動体通信事業者(MVNO)の参入などの影響により、主要携帯通信キャリアが主導してきたビジネスモデルは、今後大きく変化していくことが予想されます。

このような事業環境のもと、当社グループは、将来に向けたさらなる収益力向上を目指し、システム事業基盤の構築や、サービスの拡充を行いながら、顧客ニーズにお応えする総合的なソリューション提案を行える体制を構築してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,522百万円(前年同期比5.0%増)となり、営業利益102百万円(前年同期は営業損失132百万円)、経常利益100百万円(前年同期は経常損失161百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益156百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失533百万円)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

① システム事業

システム事業セグメントは、店舗運営を行う法人事業者を対象に、スマートフォン・タブレット端末を利用したPOSシステムの販売、予約サービスの展開など、店舗運営をサポートするソリューション提案を行っております。

当第2四半期累計期間においては、引き続きシステム事業基盤の構築や、サービスの拡充を行いながら、顧客満足度を向上させるべく、総合的なソリューション提案を行える体制を構築してまいりました。

また、外食産業向けセルフオーダーシステムの販売・運営事業を行っていたアスカティースリー株式会社が連結子会社ではなくなりましたが、その一方で事業者に対して予約システムなどのソリューションサービスの提供を行う体制を構築し、将来に向けたさらなる収益力向上を目指しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は270百万円(前年同期比49.7%減)、セグメント利益は12百万円(前年同期はセグメント損失78百万円)となりました。

② 直販事業

直販事業セグメントは、主にスマートフォンを中心とした携帯電話端末や周辺機器・モバイルデータ通信端末の販売を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、従来より取り組んできた、事業規模に見合った人員配置、従業員一人当たりの生産性の向上、諸経費の削減等が奏功し、業績が順調に推移いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,257百万円(前年同期比37.7%増)、セグメント利益は154百万円(前年同期はセグメント利益4百万円)となりました。

(2) 財政状態の分析

	前連結会計年度末	当第2四半期連結会計期間末	増減
	百万円	百万円	百万円
総資産	1,724	1,152	△572
負債	1,133	378	△754
純資産	590	773	182

総資産は、主に売掛金の減少により、前連結会計年度末に比べて572百万円減少し1,152百万円となりました。

負債は、主に買掛金、未払金、借入金の減少により、前連結会計年度末に比べて754百万円減少し378百万円となりました。

純資産は、主に親会社株主に帰属する四半期純利益156百万円を計上したことにより、前連結会計年度末に比べて182百万円増加し773百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、以下に記載のキャッシュ・フローにより733百万円となり、前連結会計年度末に比べ21百万円減少いたしました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は121百万円（前年同期は86百万円の減少）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益162百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は126百万円（前年同期は7百万円の増加）となりました。これは主に連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出111百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は16百万円（前年同期は91百万円の減少）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出29百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	137,049,600
計	137,049,600

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	48,591,907	48,591,907	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	48,591,907	48,591,907	—	—

(注) 提出日現在発行数には、平成28年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年7月1日～ 平成28年9月30日	—	48,591,907	—	100	—	—

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社光通信	東京都豊島区西池袋1丁目4-10	18,331,800	37.73
株式会社アイ・イーグループ	東京都豊島区西池袋2丁目29-16	1,620,000	3.33
有限会社あさしお	東京都大田区田園調布3丁目12-8	1,276,215	2.63
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6-1	1,142,200	2.35
株式会社エフティグループ	東京都中央区日本橋蛸殻町2丁目13-6	929,700	1.91
株式会社マイナビ	東京都千代田区一ツ橋1丁目1-1	688,000	1.42
株式会社ALL Japan Solution	東京都文京区湯島3丁目39-10	681,100	1.40
合同会社SISソリューション	東京都江東区豊洲5丁目5-1	665,521	1.37
小林 俊雄	東京都江東区	612,432	1.26
松井証券株式会社	東京都千代田区麴町1丁目4番地	606,800	1.25
計	—	26,553,768	54.65

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 48,589,000	485,890	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 2,907	—	—
発行済株式総数	48,591,907	—	—
総株主の議決権	—	485,890	—

② 【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	755	733
売掛金	668	221
商品	72	7
その他	101	54
貸倒引当金	△5	△0
流動資産合計	1,591	1,016
固定資産		
有形固定資産	20	18
無形固定資産		
のれん	16	11
ソフトウェア	33	28
その他	1	1
無形固定資産合計	51	42
投資その他の資産		
投資有価証券	11	24
その他	70	59
貸倒引当金	△21	△9
投資その他の資産合計	61	74
固定資産合計	132	135
資産合計	1,724	1,152

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	320	105
短期借入金	50	—
1年内返済予定の長期借入金	91	26
未払金	350	176
未払法人税等	23	8
賞与引当金	37	14
役員賞与引当金	6	4
その他	79	37
流動負債合計	959	374
固定負債		
長期借入金	161	4
その他	13	—
固定負債合計	174	4
負債合計	1,133	378
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	757	757
利益剰余金	△281	△124
自己株式	△0	△0
株主資本合計	575	732
新株予約権	12	21
非支配株主持分	2	19
純資産合計	590	773
負債純資産合計	1,724	1,152

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	1,450	1,522
売上原価	928	902
売上総利益	522	620
販売費及び一般管理費	※1 654	※1 517
営業利益又は営業損失(△)	△132	102
営業外収益		
その他	0	0
営業外収益合計	0	0
営業外費用		
支払利息	7	1
その他	22	0
営業外費用合計	29	2
経常利益又は経常損失(△)	△161	100
特別利益		
子会社株式売却益	—	62
特別利益合計	—	62
特別損失		
のれん償却額	※2 271	—
減損損失	75	—
その他	23	—
特別損失合計	370	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△531	162
法人税、住民税及び事業税	1	8
法人税等合計	1	8
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△533	153
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	0	△3
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△533	156

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△533	153
四半期包括利益	△533	153
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△533	156
非支配株主に係る四半期包括利益	0	△3

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△531	162
減価償却費	43	5
のれん償却額	312	4
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2	△0
賞与引当金の増減額(△は減少)	10	△22
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	1	△1
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	7	1
子会社株式売却損益(△は益)	—	△62
減損損失	75	—
売上債権の増減額(△は増加)	430	364
たな卸資産の増減額(△は増加)	41	△16
仕入債務の増減額(△は減少)	△151	△181
未払金の増減額(△は減少)	△189	△149
その他	△87	59
小計	△39	163
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△7	△1
法人税等の支払額	△39	△45
法人税等の還付額	—	5
営業活動によるキャッシュ・フロー	△86	121
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6	△1
無形固定資産の取得による支出	△6	—
投資有価証券の取得による支出	—	△12
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△111
その他	20	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	7	△126
財務活動によるキャッシュ・フロー		
非支配株主からの払込みによる収入	—	20
長期借入金の返済による支出	△58	△29
リース債務の返済による支出	△31	△7
その他	△1	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△91	△16
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△170	△21
現金及び現金同等物の期首残高	726	755
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 556	※ 733

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間において、清算終了したことにより、メディカモバイル株式会社を連結の範囲から除外しております。

当第2四半期連結会計期間において、株式の一部を譲渡したことにより、アスカティースリー株式会社を連結の範囲から除外し、持分法適用の範囲に含めております。また、株式会社E P A R Kライフスタイル及び株式会社E P A R Kテイクアウトを新規設立し、連結の範囲に含めております。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法については、従来、定率法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

これは、当連結会計年度において、今後の収益構造及び有形固定資産の使用状況を再検討した結果、使用可能期間にわたる均等償却により費用配分を行うことが、当社グループの経済的実態をより適切に反映できると判断したためであります。

この変更による四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
給料及び手当	162百万円	115百万円
賞与引当金繰入額	10 "	14 "
役員賞与引当金繰入額	1 "	4 "
貸倒引当金繰入額	△2 "	△0 "

※2 「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」(日本公認会計士協会 最終改正平成26年11月28日 会計制度委員会報告第7号)第32項の規定に基づき、のれんを償却したものであります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
現金及び預金	556百万円	733百万円
現金及び現金同等物	556百万円	733百万円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム事業	直販事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	538	912	1,450	—	1,450
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	0	0	△0	—
計	538	913	1,451	△0	1,450
セグメント利益又は損失(△)	△78	4	△73	△58	△132

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△58百万円は、各セグメントに配分していない全社費用△58百万円です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

システム事業セグメントにおいて、連結子会社の固定資産の減損損失を計上しております。なお、当第2四半期連結累計期間における当該減損損失の計上額は75百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

システム事業セグメントにおいて、子会社への投資に係るのれんを償却(特別損失)したことにより、のれんが271百万円減少しております。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム事業	直販事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	270	1,252	1,522	—	1,522
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	5	5	△5	—
計	270	1,257	1,528	△5	1,522
セグメント利益	12	154	167	△65	102

(注) 1 セグメント利益の調整額△65百万円は、各セグメントに配分していない全社費用△65百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結会計期間にアスカティースリー株式会社の株式の一部を譲渡したことにより同社が連結子会社でなくなったため、前連結会計年度の末日に比べ、当第2四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、システム事業において、320百万円減少しております。

(企業結合等関係)

(子会社株式の譲渡)

1. 事業分離の概要

(1) 子会社及び分離先企業の名称

子会社 : アスカティースリー株式会社

分離先企業 : 株式会社7ホールディングス

(2) 分離した事業の内容

外食産業向けセルフオーダーシステム(e-menu)の企画・開発・販売・運営等

(3) 事業分離を行った主な理由

当社グループはシステム事業の一つとして、アスカティースリー株式会社において外食産業向けセルフオーダーシステムの販売・運営事業を行ってまいりましたが、平成27年3月期および平成28年3月期は販売不振により、赤字となっております。

また当社は、平成28年5月19日付プレスリリース「新たな事業の開始に関するお知らせ」に記載のとおり、中長期に亘り業績を拡大するためには成長事業を柱とした事業領域の拡大が必要不可欠であり、企業価値向上のために、経営資源を成長事業に集中していきたいと考えております。

このような状況下で、アスカティースリー株式会社については経営を第三者に委ねることが当社及び同社にとって有効であると判断し、株式の一部を株式会社7ホールディングスに譲渡いたしました。

(4) 事業分離日

平成28年7月31日

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする株式譲渡

2. 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

子会社株式売却益 62百万円

(2) 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産	320	百万円
固定資産	3	〃
資産合計	324	百万円
流動負債	307	百万円
固定負債	54	〃
負債合計	362	百万円

(3) 会計処理

アスカティースリー株式会社の株式の連結上の帳簿価額と、この対価として当社が受け取った現金との差額を子会社株式売却益として特別利益に計上いたしました。

3. 分離した事業が含まれていた報告セグメント

システム事業

4. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

売上高	137	百万円
営業利益	15	〃

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)	△10円97銭	3円23銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△)(百万円)	△533	156
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△)(百万円)	△533	156
普通株式の期中平均株式数(株)	48,591,841	48,591,841
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 1 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月11日

I N E S T株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中村 太郎 ⑩

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 土屋 光輝 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているI N E S T株式会社（旧会社名 ユニバーサルソリューションシステムズ株式会社）の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、I N E S T株式会社（旧会社名 ユニバーサルソリューションシステムズ株式会社）及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。